

コンテナ苗植栽研修会資料

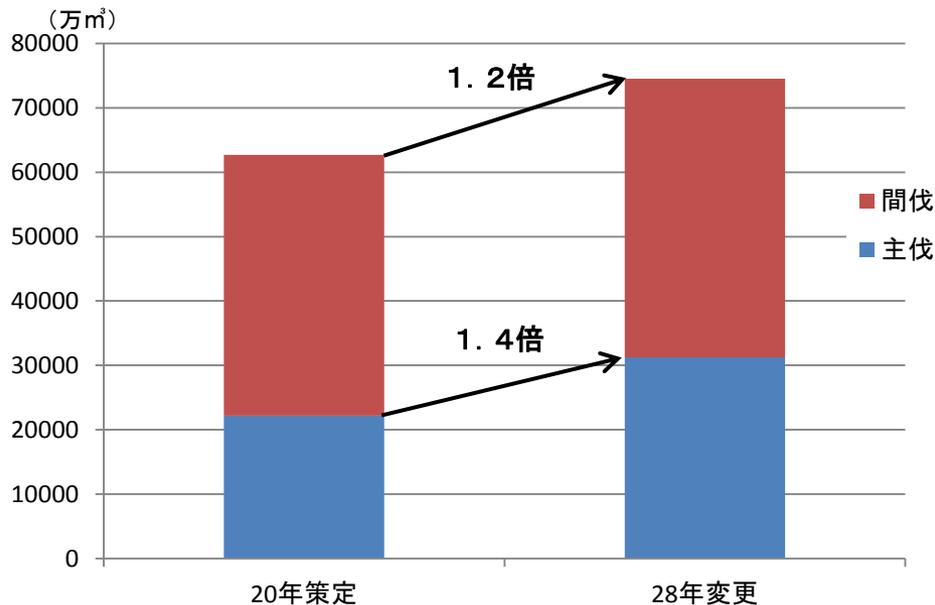
- 日 時：平成28年10月5日(水) 10時～12時
- 場 所： 層雲峡国有林 2331そ林小班内
- 研修会：
 - (1) 開会及び趣旨説明(三浦森林技術指導官)
 - (2) 研修内容説明(澤田森林整備官)
 - (3) 実地研修
 - (5) 閉会(飯塚署長)



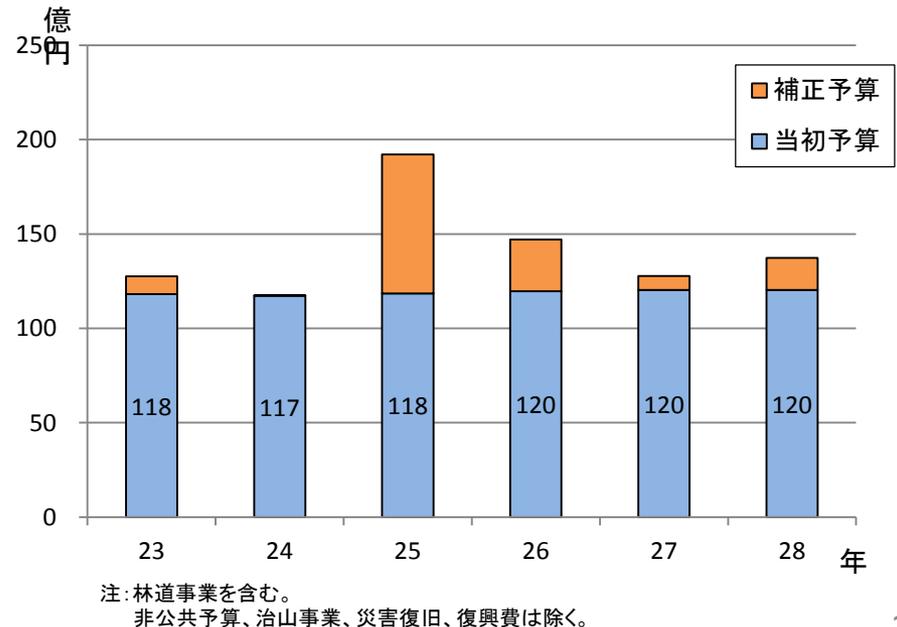
- 森林吸収源対策として、間伐量を確保しつつ、主伐・再造林で森林の若返りを図る必要

- 一方、予算の大幅な伸びは期待できない

全国森林計画における主伐計画量(15年間)

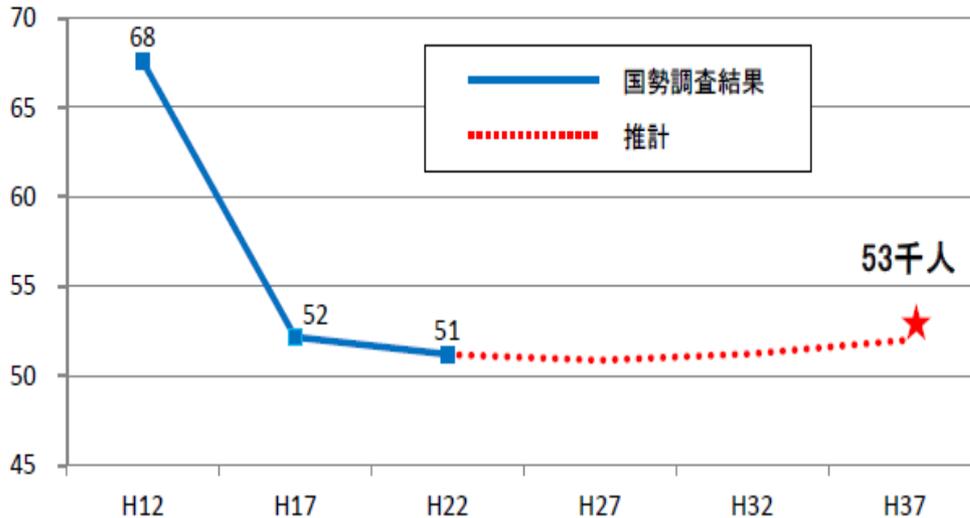


森林整備事業予算の推移



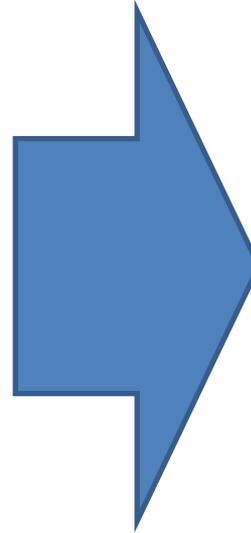
- 林業労働力は、木材生産量や造林量と生産性向上を見込んで微増の見通し
- 若年労働者の雇用拡大

■ 林業従事者数の見通し



資料:総務省「国勢調査」

注:林業従事者の年齢階層別数について、平成17~22年の変化数を使用して推計。



- 一貫作業で造林コストの低コスト化、林業用機械の活用、集約化作業
- 施工性の良いコンテナ苗の活用
- 生産と造林の兼務の推進



本日の研修会

➤ 国有林は生産と造林を一体的に行う一貫作業を推進します

森林・林業基本計画(平成28年5月24日策定)

第3 森林及び林業に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策

1 森林の有する多面的機能の発揮に関する施策

(2) 再造林等による適切な更新の確保

① 造林コストの低減

・・・伐採と造林の一貫作業システムの導入、コンテナ苗や成長に優れた苗木の活用、低密度での植栽、機械化等による低コスト造林技術の開発・実証を進める。・・・その際、国有林のフィールドや技術力等を活かし、低コスト造林技術の開発・実証等に積極的に取り組む。

2 林業の持続的かつ健全な発展に関する施策

(1) 望ましい林業構造の確立

④ 経営感覚に優れた林業事業体の育成

・・・素材生産と造林・保育、森林作業道の作設等も兼務できる現場技能者の育成等により、現場技能者等の有する高い能力を引き出すとともに、人員配置の最適化等を図る。国有林においては、多様な立地を活かし、事業の実施やニーズに適した研修フィールドの提供、先駆的な技術の実証等を通じて林業事業体の育成に寄与する。

植栽器具

上北署・技セン



プランテングチューブ

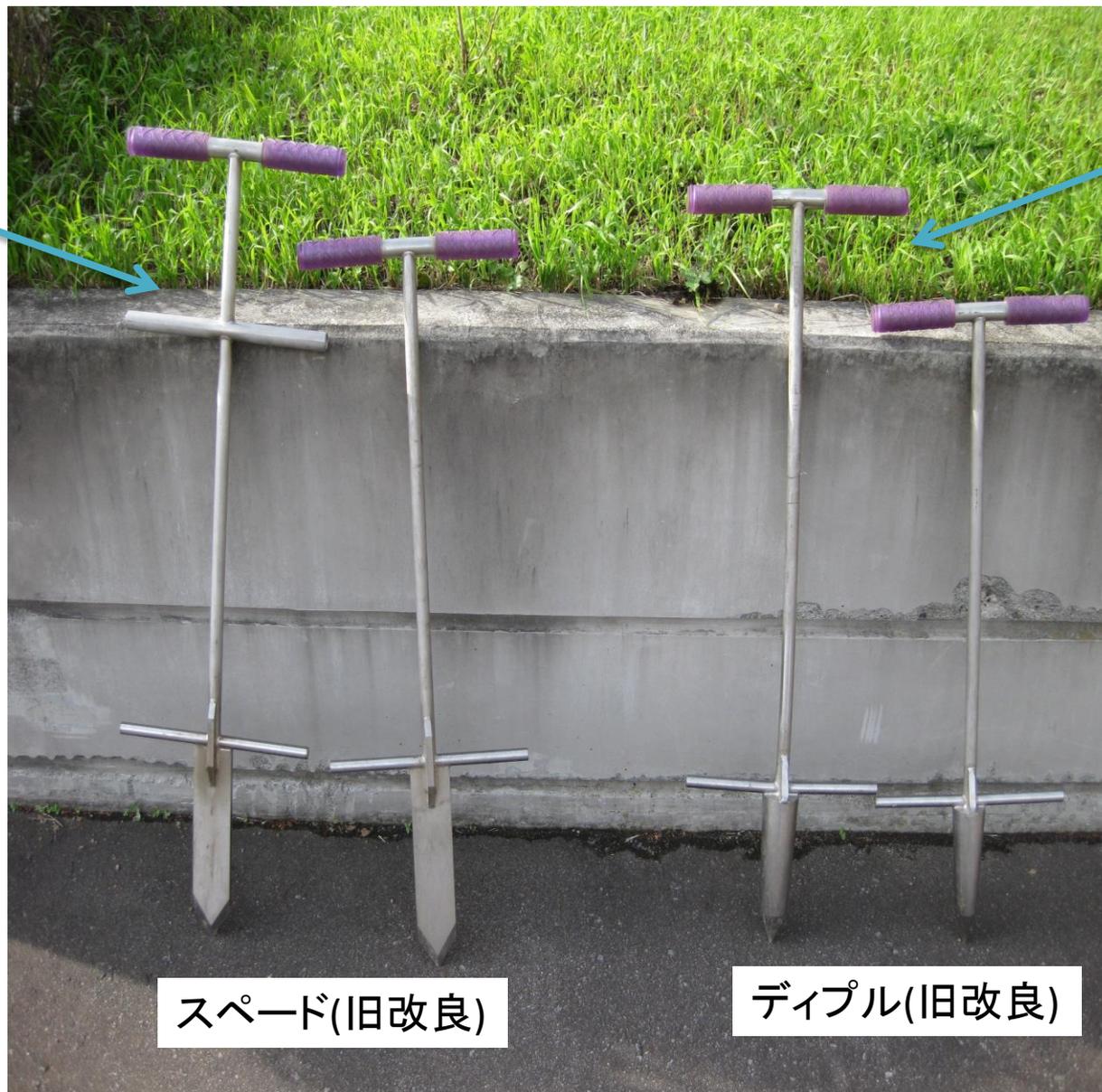
スベード

ディブル

森林総合研究所 北海道支所試作

- ・柄の長さ
- ・補助棒の取付け

- ・柄の長さ



スペード(旧改良)

ディプル(旧改良)

左が300cc
右が150cc

植栽工期調査結果

植栽器具毎の工期

(人工/1,000本)

器具名	平均(4年間の平均)	最高	最低
クワ	2.39	1.03	4.35
スパード	2.61	1.12	4.36
ディブル	2.67	1.21	8.90
プランテング チューブ	2.89	1.21	5.03

※4年間のデータから最高・最低の数値を記述

苗木毎の工期

(人工/1,000本)

裸苗(クワ)	3.07
コンテナ苗	2.59

参考資料(北海道の資料を基に編集)